

別紙資料
R4.2.7総合教育会議

町民体育祭の見直しの状況について

宮代町
宮代町教育委員会

1. 町民体育祭の趣旨

スポーツ基本法では、地方公共団体の責務として「（基本法の）基本理念にのっとり、スポーツに関する施策に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する」と規定されている。当町では基本法の趣旨を踏まえて、町民同士の交流の場と共にスポーツの振興、発展のための最大イベントとして町民体育祭をスポーツの日に開催している。

2. これまでの成果と自治会の参加推移

町民体育祭には毎年多くの町民が参加し、地区対抗種目を通じて、住民同士が知り合い、地域コミュニティの醸成に貢献してきた。しかしながら、近年、体育祭の参加者及び自治会の参加が年々減少している。

	H28	H29	H30	R1
参加地区・自治会数/全体数	47/78	47/78	40/78	36/78
参加率%	60.26	60.26	51.3	46.2

参加を取りやめる理由

「高齢や健康状態を理由に参加できない」「参加者が集まらない」が多い。

区長アンケートから

3. 見直しの経緯

H28

体育協会を中心に町民体育祭活性化検討会が発足。

⇒町民体育祭活性化案についての提案書を町に提出。

提案書では次の4項目が提案された。

1. 多くの人を町民体育祭に呼び込む工夫を
2. 町民体育祭の積極的な周知・PRを
3. 種目を参加しやすく、楽しく
4. その他

H29

町では提案書を受け、地区対抗種目や個人種目の変更、予備日の廃止を実施。

H30

各区長にアンケート調査を実施

⇒アンケート結果では、自治会を中心とした参加について厳しい現状が伺える意見が相次いだ。(前ページ参照)

R1

台風の影響により開催中止

R2～R3

新型コロナ感染拡大の影響により開催中止(2年連続)

長引く新型コロナの感染拡大により、自治会やスポーツ団体の活動も自粛を余儀なくされ、団体構成員同士のコミュニケーションも低下しているため、自治会やスポーツ団体がコロナ前のような活動を継続を前提に検討するのは現実的ではない。

4. 今後の課題

■町内スポーツ団体の減少でスポーツイベントの運営が困難に

日本のスポーツは、これまで野球やバレーボールなどの団体競技を中心に発展してきた。しかしながら近年、競技人口が減少する一方、ニュースポーツの普及やスポーツの親しみ方が多様化している。こうしたこともあり、町の体育協会やスポーツ少年団の加盟団体が減少し、スポーツイベントの運営が困難となっている。

▶埼玉県内の市町村の動向

	R1	R2	R3
体育祭系(競走系)	19	19	17
スポーツ、レクレーション系	20	20	22(杉戸、川島の増)

▶町スポーツ団体の状況

	R1	R2	R3
町体育協会加盟団体数	15	14	13
町スポ少加盟団体数	11	10	10

※各年度の団体数は予定数。実際は新型コロナで中止が9割以上。R4は鴻巣市、八潮市がスポ、レクへ変更

■新型コロナ感染予防対策をとりながらの競技の実施が困難

新型コロナの感染が収束しない中、当面、感染拡大の防止としてマスクの着用、ソーシャルディスタンスや人との接触機会を少なくする対策を解除するのは難しい。

⇒従来の競技中心の体育祭は、競技で道具を使い回しするため、人と人の接触は避けられない。また、ソーシャルディスタンスを保つのは困難である。

⇒競技種目は、人との接触を避ける種目が求められる。

■高齢化が進み、参加者の確保が困難

20～30代の現役世代が、この10年で1,400人減少している一方で60代以上の世代が1,330人増加し、高齢化が進んでいる。(R3高齢化率 32.5%)

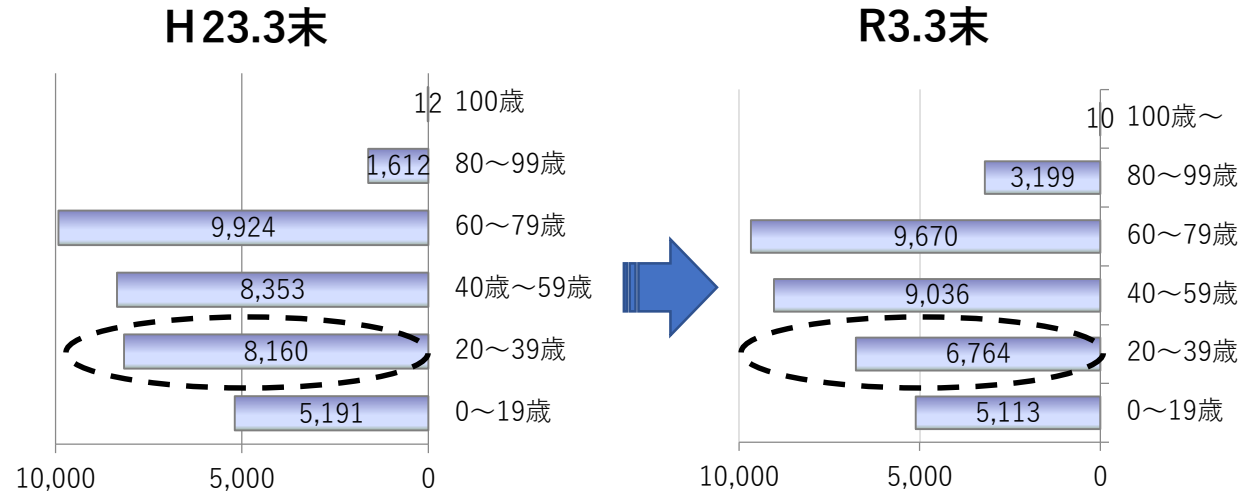
⇒市街化調整区域の自治会では子どもや20～30代の減少がさらに進んでいる。

⇒参加する場合の課題の質問に「地区内の少子高齢化が進んでいる」と回答した自治会が全体の70%、「参加者が集まらない」と回答した自治会が64%。

⇒今後の体育祭に住民が参加しやすくする方策の質問に「高齢者が参加しやすい種目の新設」と回答した自治会が49%。「レクリエーション性の高い種目の新設」と回答した自治会が33%

年齢6区分別比較

単位：人



■バリアフリー社会に対応するイベントへ

町では障がい者や高齢者が暮らしやすいバリアフリーのまちづくりを目指している。第5期障がい者基本計画では、「障がい者の地域の行事やイベントなどの交流事業を通して障がい者の活動の幅を広げる」ことを施策としている。体育祭も子どもや高齢者、障がい者など誰もが参加できるバリアフリー社会に相応しいイベントとすることが求められている。

5. 今後の体育祭の在り方

- (1) ニュースポーツなどスポーツの多様化に対応し、様々なスポーツが体験できるイベントとする必要がある。
- (2) 町スポーツ団体との交流機会を創出し、団体の育成を図る必要がある。
- (3) 子ども、高齢者、障がい者が楽しめる企画が必要である。

町体育協会、町スポーツ少年団、スポーツ推進委員と意見交換を実施。現在の開催方法で体育祭を引き続き実施するのは困難という点について概ね共有している。

6. 体育祭の案

地区、自治会単位で参加する体育祭の開催方法から自治会だけでなく個人や仲間、チームでも参加できるイベント(仮称)みやしろスポーツフェスティバルとして開催する。

ーフェスティバルの考え方ー

- ① 子ども、高齢者、障がい者などが自由に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントとする。
- ② 町民とスポーツ団体の交流機会を創出し、スポーツ人口の増加及びスポーツ団体の育成に繋げる。
- ③ 町民とスポーツの一流選手との交流機会を創出し、スポーツの魅力を高め、スポーツ人口の増加を図る。

7. 今後の予定

R4.2 4~5	<ul style="list-style-type: none">・全員協議会で町民体育祭の見直しの検討状況について説明(本日)・区長への説明
6	⇒スポーツフェスティバル実行委員会で検討 (体協・スポ少、スポ推、総合型クラブ、区長代表、社協など)
7	⇒スポーツフェスティバル実行委員会で検討
8	⇒スポーツフェスティバル実行委員会で検討
10	⇒スポーツフェスティバルの開催
11	⇒スポーツフェスティバル実行委員会(反省・総括)